

Socio-Intelligence report Si-report

専修大学のビジョンと現状

SENSHU UNIVERSITY

2020
vol.15



140th
1880-2020
SENSHU University



2020.4.1 NO.10
BLDG.
COMPLETE!

建学の精神と21世紀ビジョン 「社会知性の開発」



社会知性(Socio-Intelligence)とは

専門的な知識・技術とそれに基づく思考方法を核しながらも、深い人間理解と倫理観を持ち、地球的視野から独創的な発想により主体的に社会の諸課題の解決に取り組んでいける能力である。

専修大学は、1880年(明治13年)、米国留学から帰国した4人の若者により創立されました。相馬永胤、田尻稻次郎、日賀田種太郎、駒井重格の創立者たちは、明治維新後、米国のコロンビア、エール、ハーバード、ラトガース大学にそれぞれ官費や藩費により留学し、米国の地で「専門教育によって日本の屋台骨を支える人材を育てよう。そのことが海外で長年勉強する機会を与えてもらった恩に報いることだ」と考えました。4人の創立者は、帰国後、経済学や法律学を教授するため本学の前身である「専修学校」を創立します。わが国があらゆる分野において新時代を担う人材を求めた時代にあって、留学によって得た最新の知見を社会に還元し、母国日本の発展に寄与しようとしたのです。いち早く近代法の考え方をわが国に根付かせようとした本学は、五大法律学校の一つとして重要な役割を担いました。

以後、本学は関東大震災や戦禍などによって極めて困難な状況に直面しながらも、学窓の灯火を守り続けてきました。21世紀に入った今日においては、私学全体にふりかかる大きな荒波を乗り越え、さらなる発展を遂げなければなりません。常に創立の原点に立ち返り、本学の進むべき指針を熟慮するとき、自ずと道は拓かれます。その指針として、本学は建学の精神である「社会に対する報恩奉仕」を現代的に捉え直した「社会知性(Socio-Intelligence)の開発」を21世紀ビジョンに据えました。

今日、グローバル化の拡大と異文化交流の進展、情報化の加速、少子高齢化の進行など、我々が取り組まなければならない課題は山積しています。これらの社会的課題を解決するためには、地球的視野から諸問題を捉える力、創造的発想力、さらには深い人間理解や倫理観が求められます。こうした新時代の社会で求められる知性こそ、「社会知性」だと専修大学は考えます。それは、学生一人ひとりが自己実現に生かせる知であると同時に、「専修大学が創り育てる知」でもあります。

▲ Siとは…

「社会知性:Socio-Intelligence」の頭文字[S][I]と「SENSHU Intelligence」の頭文字[S][I]を表現しています。本誌は、専修大学のビジョンと現状をリポートしていきます。

▲ シンボルマーク&カラー

Sの字は専修大学と21世紀ビジョン「社会知性(Socio-Intelligence)の開発」の[S]を意味します。ブルーの曲線は大海原を、緑の球体は地球を表し、本学で「社会知性」を育んだ人材が、世界に羽ばたき、活躍するさまを表現しています。



▲ 専修大学マスコット「センディ」

獅子の姿に鳳の羽を配した本学のマスコットは、若者たちに無限の可能性を持つ未来へ力強く羽ばたいてほしいという思いが込められています。



創立150周年に向けて

—社会知性の具体化に向けた教育改革が実を結ぶ—

生田キャンパス5学部のキーパーソン6名による座談会



1 専修大学長
佐々木 重人
Shigeto Sasaki

2 副学長(文学部教授)
金子 洋之
Hiroshi Kaneko

3 経済学部長
兵頭 淳史
Atsushi Hyodo

4 経営学部長
関根 純
Jun Sekine

5 ネットワーク情報学部長
松永 賢次
Kenji Matsunaga

6 人間科学部長
嶋根 克己
Katsumi Shimane

神田神保町カルチャ・ラタンの創出へ 専修大学の果たす役割

1. **佐々木** 神田キャンパスに10号館(140年記念館)という新校舎が完成するにあたり、まず考えたのが新学生街の創出というイメージ作りです。生田キャンパスとは異なる神田なりのブランディングが重要だと思い、神田の中でも神保町にある大学として「神田神保町カルチャ・ラタン」というテーマを立ち上げました。従来展開していた法学部に商学部が加わることで難関国家試験や資格系試験にチャレンジする学生が集まる場が生まれ、これが神田キャンパスの一つの特徴になります。街づくりのノウハウも持つマーケティング学科のある商学部の移転、国際コミュニケーション学部の新設により、街に対するコミットの変化や新たな価値

観の創出などにも期待しています。また、学問だけではなく文化的な発信拠点として、10号館の黒門ホール、グローバルフロア、Knowledge Base(図書館)、SENDAI-Kaffeeなどのインフラを駆使してさまざまな文化発信を推し進めます。下町の江戸情緒が漂い、世界に知られる古書店街でもある神保町という街に、さまざまなかたで貢献し、地域に溶け込んで歓迎される大学を目指していきます。

2. **金子** 地域との交流といえば、法学部では以前から一般向けの法律相談を行ってきましたが、商学部と国際コミュニケーション学部が加わることで、より多様で専門性に富んだ講座やイベントなどを開きたいと考えています。10号館内のKnowledge Baseは生田キャンパスの図書館と連動し、必要な本は1日程度で取り寄せられるというアクセスのよい図書館が実現するは

ずです。生田の図書館が川崎市民に開放されているように、神田でも街に開かれた図書館を目指したいですね。また、グローバルフロアも本来は国際コミュニケーション学部の学びの中心地ですが、時には一般開放する計画です。東京に集まる多様な留学生たちを招いたり、地域住民や子供たちが国際交流できる場所にしたいと構想しています。

1. **佐々木** 街には素晴らしい古書店街がありますし、図書館のレファレンスサービスとして古書店街とも連携できればいいですね。たとえば、図書館にはない本も街の古書店の在庫データを確認して案内することができれば手に入れられます。神保町の古書店街全体が専修大学の学生にとって大きな意味での図書館である—そのようなサービスを創出できれば素晴らしいのではないかでしょうか。

専修大学が描く将来ビジョン

専修大学長
佐々木 重人

副学長(文学部教授)
金子 洋之

経済学部長
兵頭 淳史

経営学部長
関根 純

ネットワーク情報学部長
松永 賢次

人間科学部長
嶋根 克己

経済学部の学科改組 3学科の特長と育てたい学生像とは

3.兵頭 従来の経済学科を現代経済学科と生活環境経済学科の2つに再編し、既存の国際経済学科を合わせた3学科体制になりました。現代経済学科は、現代の社会現象を分析する有効なツールとしての経済学的知識、経済理論、応用する手法、エビデンスに基づく政策論や市場の動向を見通す力などを身につける狙いがあります。生活環境経済学科では、学際的アプローチから市民生活や仕事に直接関わる経済問題を読み解き、解決する力を身につけられます。国際経済学科では、グローバル化が深化する経済社会がどのようにかたちづくられ、いかなる問題を抱えているか、また各地域の経済状況はどうか、そういうことを読み解く力を身につけてもらうことを狙いとしています。

カリキュラムの特色は、まず、現代経済学科と生活環境経済学科のプログラム制[※]です。従来のコース制とは異なり卒業の条件ではないので、自由度の高い履修で専門的な知識や学びを深められます。個別でいえば、現代経済学科は「経済数学基礎」、「統計学基礎」を1年次の必履修科目とし、経済学の体系を無理なく積み上げていけるカリキュラムです。生活環境経済学科は、さまざまな経済ニュースや経済問題を自分たちの身に引き付けてとらえる力を磨く「生活環境と経済」という科目や、データと統計を駆使して読み解く「経済データ入門演習」を必履修科目としています。国際経済学科は、「グローバルエコノミー」という科目を必履修科目にし、多様性と均一化の方法を持った複雑でグローバルな経済社会の動きをとらえる基礎的な視点を1年次から体得できるようなカリキュラムを構築しています。同時に語学を重視し留学経験者が多いのも特色だと考えます。そうした学びを経て望むのは、根拠を持った政策判断や議論に参加できるような学生像です。現代経済学科ならミクロ、マクロ、統計という数量的なデータを駆使した方法、生活環境経済学科なら自分たちの視点と経済環境をつなぐ思考と多様なアプローチ、国際経済学科はグローバル社会への視点と言語や文化理解を武器に、私たちの経済社会をよりよくしていける市民になってほしいですね。

※現代経済学科:「経済政策」「企業産業」「金融」「経済理論」/生活環境経済学科:「地域・環境」「福祉・労働」「社会経済史」「経済システム・理論」

「Society 5.0」に向けた 生田データサイエンスビルズ構想について

1.佐々木 通信環境やコンピュータ技術の飛躍的な発達により、あらゆる人の行為がデータに置き換わられる分野が非常に増えました。同時に、分野を問わずデータ分析をするための素養が求められる社会になりつつあります。生田キャンパスの学部を見直してみると、どの学部もデータサイエンス系の手法を駆使する研究が非常に多いことがわかり、データサイエンスという一つの切り口でアピールできると感じました。学生にとっては“山の上”という印象もあるようですが、そこには別天地があり、何か楽しいことに近づけるという印象を抱いてもらおうと考案したのが、「生田データサイエンスヒルズ」という名称です。学生諸君は専門領域とデータサイエンスを学ぶことで就職でも強みになると考えます。また、川崎市はIT企業が多く、専修大学は多摩区との連携にも実績があります。地域問題を官学連携で解決したり、産業界の関係者が自由に入りたりと、面白いことが方々の研究室で行われるという未来も期待しています。その後押しになればと研究助成制度も創設しました。応募条件は、複数の研究者で行うこと、年1回はプレスリリースを出し社会に発信することなどです。一番手はネットワーク情報学部の教員たちが中心とした研究が始動しています。



データサイエンスに対する 各学部のアプローチとは

4.関根 経営学部は2019年度にビジネスデザイン学科を開設し、2学科体制になりました。経営学部が包括するデータサイエンスは主に、現状を明らかにする時、データを使った新しいサービスを考える時、ビジネスを改善するために仮説を作り検証する時、業務を抜本的改革

する時、などが挙げられます。それに対して用意されるカリキュラムは、業界や金融データ、消費者行動などについてのデータ分析、統計、データの可視化などの授業が基本にあります。地域活性化の観点から多くの自治体や、地元企業と組んだ研究でも活用されています。ただ課題も多く、データ集計の難しさを感じています。集められても質が悪いとデータ分析に使えませんから、それを見抜いてデータを揃える技術が必要です。また、実際に現場に赴き、課題を見つけ、整理し、データ分析につなげるストーリーを組み立てる技術や、授業で学ぶ基礎的な技術をいかに組み合わせて応用するかということも重要になります。

今回の研究助成制度を用いた研究には、経営学部からも一名の研究者が参加しており期待しています。さまざまなセンサー類が吐き出すデータは、人が作り出すデータ量をはるか上回ります。それを有効利用できれば何か新しいものを得られるはずだと、IoTをキーワードにデータを集めようとしています。企業での研究ではなく大学で行われることで、新たな価値観を生み出せるかもしれません。



5.松永 ネットワーク情報学部は、コンピュータによるデータ処理やメディア発信、メディアと人間のインタラクションなどを得意としてきた学部です。データサイエンスはこれまでと違ったアプローチが必要だと思っています。本学部がこれまで対象としてきた情報は、どちらかといえば構造化されており、定番の処理をコンピュータ化すればいいものでした。データサイエンスは何が正しいか、どう処理していか不明なものを扱い、このデータはこのようなことを表しているかもしれないと考えて、おかなければ改善する、というような仮説検証型です。対象とする分野の専門家たちと一緒に取り組まなければただのコンピュータ遊びになりかねません。今後は他学部とのコラボレーションに

も積極的に取り組むべきと考えています。その意味でも、今回の研究助成で、我々の学部の教員が中心となって進める研究は大変有意義です。理論にフォーカスを当てる人、コンピュータ処理に重きを置く人、それを統計的に分析する人、と多彩な教員が組んでいます。そのような分野横断型のタッグはこれまであまりなかったのですが、研究助成があることで何か面白いことを起こす知恵や創造力が働くことがわかりました。研究成果が他学部にも知られるなかでさまざまな気づきが生まれ、他学部とも研究が進むかもしれません。相乗効果で新たなものが生まれ、教員だけでなく学生たちもワクワクさせ、ネットワーク情報学部の新しい展開につながることを望んでいます。

6.嶋根 生田キャンパスの場所は日本の通信やコンピュータ産業を牽引した日本電気の工場跡地でした。その地において専修大学がデータサイエンスヒルズを構想することは歴史的に見てとても意義深いことだと思います。さて、データサイエンスというと数字などのデータを分析して社会の理解に役立てる科学と思われがちです。しかしその元になるデータはどこからくるでしょうか、どのように作り出されているのでしょうか。データは「自然に」でてくるのではなく、人間が何らかの意図をもって測定し、体系的に収集しなければ、意味のあるデータにはなりません。つまりデータ分析の手法を洗練すると同時に、データ作成の目的と技法をつきつめていかないと、「とんでもないデータ」に踊らされたり、倫理を逸脱して収集されたデータを使用することになりかねません。人間科学部では実験、観察、調査を重視しながら、客観的なデータの収集、作成、分析、保存そして開かれた世界に向けての公開方法を洗練させています。いってみれば具体的でナマの現実と、そこから創出されるデータとのインターフェースの開発を目指しているのです。

心理学も社会学も「こころ」や「社会」という目に見えず、とらえにくい対象を研究しています。心の在り方をデータに裏打ちされたエビデンスにするためには、心理学では、相手との信頼関係をベースにしながら人間の心の深部を探り出していく臨床心理学から、外界に対する心理的な反応を客観的なデータによって測定し、人間の脳と心のメカニズムを解明する実験心理学までさまざまな応用力が必要とされます。社会学では、一人一人への丁寧な聞き取り

調査を積み重ねていきながら社会像を組み立てていく質的調査から、世界的に共有されたデータを分析したり、アンケート調査によってデータを作り出しながら総合的に社会を把握する量的調査が必要とされます。両学科がデータサイエンス研究の現場においても果たす役割は非常に大きいと考えます。



3.兵頭 経済学部の新しい展開として、従来の経済学の守備範囲とは一見異なるような分野での研究が、経済学の手法で行われています。たとえば、現代経済学科では、事故・災害や教育などといった幅広い現象や制度についてミクロ経済学や計量経済学の手法を用いて研究されています。しかしながら、統計的なアプローチにはさまざまな問題が発生します。わかりやすい例でいえば、世界的にも経済学でも重要なテーマであるジェンダー平等の問題があります。男女に関する多様な事柄の統計を取った際、就労継続年数、離職率を男女で比較すると明らかに男性が長く女性は短い。長く就労してもらいたい企業にとっては、統計的に見れば男性を採用するほうが合理的な選択となります。しかし、社会の中でジェンダー格差や差別を温存することになります。男女に区分した就労期間のデータを採用行動の中で利用することが果たして適切なのかという問題や、そもそも女性が短期間で離職するのは“女は結婚・出産を機に退職するもの”という固定観念の影響が大きく、就業意欲や能力の問題とは別物であるでしょう。そのようなところをいかに改善していくべきか、それを踏まえて統計データはどのように扱うべきなのか、が重要な課題だと考えます。今、専修大学はSDGsを推進しようとしていますが、こうした観点からの統計データの使い方をより深めていく研究、そしてそれを学生に教育、共有していくことを経済学部では今後の展開として進めていければと考えます。

創立150周年に向けて 今後の専修大学が目指す方向性

1.佐々木 専修大学ではほぼ10年スパンで目標を定め、活動を行なってきました。140周年に向けては、神田キャンパスの10号館の完成、新しい教育システムの構築などを行い、今年で終着を迎えます。では、今後10年間、20年間はいかに進むべきか。リーダーシップを取るのはもちろん学長の役目ですが、全学で知恵を出して取り組みたい。そんな目標を模索していたところ、SDGsの理念がちょうど専修大学の建学の精神と21世紀ビジョン「社会知性の開発」の考え方とシンクロしていると感じました。社会知性の開発を目指すことはSDGsの目標達成と結果的につながるのではと考え、また、奇しくもSDGsの目標期限は本学の創立150周年と同じ2030年で不思議な縁を感じました。そこでまず、全学で教員の方々の研究や活動のデータを集めたところ、驚いたことに17の目標があるSDGsの全ての領域に関わりのある研究、社会活動が行なわれていると確認できました。「社会知性の開発」を謳う大学としては積極的に進めるべき価値ある目標だと思い、今後10年を目途に、各学部の方々に協力を賜りながら各学部の目標としても掲げて頂くレベルに落とし込んでいきたいと考えます。専修大学での研究、教育活動がSDGsと非常に親和性が高く、大学の教育目標に合致しているということを、特に理解してほしいのは受験生に限らず小・中・高の若い世代です。そのための活動は当面の専修大学の活動目標としたいと考えています。現に、若い世代は、地球環境、年金、福祉など多様な問題が山積みで不安に感じる世代でしょう。それは解決すべき課題であり、その動機づけになるような訓練をしてもらいたい。そのため専修大学も役に立ちたいと思っています。それが私が学長を務める時代の役割ではないかと考えている次第です。

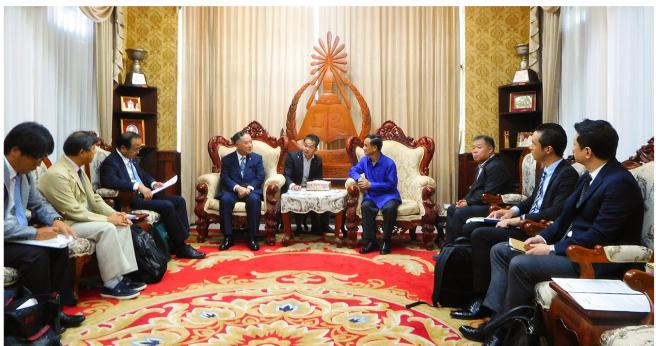


知の発信のための研究開発



複式簿記普及推進研究センターを設置

ラオス国内における簿記教育の発展・普及を目指して



▲ ラオス語で簿記テキスト開発へ研究センター設置

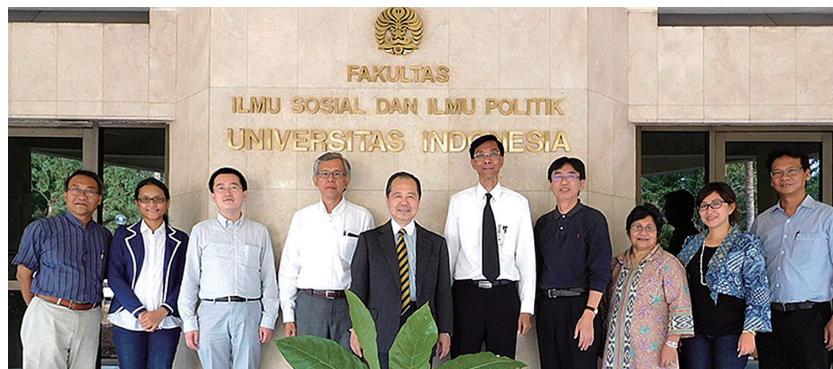
社会知性開発研究センターに「複式簿記普及事業推進研究センター」(研究代表:国田清志商学部教授)が設置されました。センターの設置に先立ち、専修大学はラオス国立大学、ラオス国立大学経済経営学部、ラオス商工会議所、川崎商工会議所、専修大学会計学研究所との間でラオスでの簿記教育の発展・普及にかかる協力協定を締結しており、プロジェクト名は「ラオス国内における簿記教育の発展・普及—ラオス語による簿記テキストの開発と簿記検定試験の実施支援—」。今後、2022年3月までを目途に具体的な取り組みを行っていきます。センターの設置に際し、松木健一専務理事とプロジェクトメンバーらがラオスを訪問。ラオス財務省でソムディ・ドゥアンディ副首相兼財相らと懇談したほか、ラオス商工会議所の簿記セミナーに参加し、プロジェクトの連携、協力を確認しました。



インドネシア大学の研究所と国際交流組織間協定

「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業(2014~18年度)」での研究交流が発展

社会知性開発研究センター/ソーシャル・ウェルビーイング研究センター(研究代表:嶋根克己人間科学部教授)は、インドネシア大学社会政治科学部社会政治研究所(インドネシア・デボック市、Jajang Gunawijaya研究所長)と国際交流組織間協定を締結しました。専修大学の国際交流協定において、インドネシアは初。ソーシャル・ウェルビーイング研究センターは、私立大学戦略的研究基盤形成支援事業としての採択期間終了後も学内研究プロジェクトとして継続しており、2021年にはインドネシアでの国際コンファレンスが予定されています。



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

専修大学は持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています



中国・南開大学で行われた国際学術シンポジウムで法学部6教員が報告

日中韓の法学者が各国の国内法の現状や課題、相互影響などを協議

法学部と国際学術交流協定を締結している南開大学法学院(中国・天津市)において「北東アジアの未来に向ける法治国際学術シンポジウム」が開催されました。本シンポジウムは、同大創立100周年記念行事の一環として行われ、専修大学からは森川幸一法学部長、榎透教授、岡田好史教授、小川浩三教授、大西楠・テア准教授、吉川純恵講師が参加。日中韓8大学の法学者が集まり、それぞれの国内法の現状や課題、相互影響のほか、今後の相互交流活動について協議されました。南開大学は中国の国家重点大学の一つで、同国内トップクラスの教育・研究レベルを誇り、専修大学法学部とは2013年7月に組織間協定方式による協定を結んでいます。



メキシコの歴史書『クロニカ・メヒカーナ』の写本をデジタル化し公開

科研費・新学術領域「古代アメリカの比較文明論」助成による国際プロジェクトが成果報告

国際コミュニケーション学部・井上幸孝教授が参加する国際共同プロジェクト「プロジェクト・クロニカ・メヒカーナ(PCM)」は、メキシコ・アステカ王国の歴史に関する最重要史料『クロニカ・メヒカーナ』の現存する写本のうち2つのデジタル化を行い公開しました。『クロニカ・メヒカーナ』は16世紀末、アステカ王家の末裔によって記された歴史書。デジタル化された史料は各ページの画像の隣にテキストを配し、両方を同一画面で見ることが可能。井上ゼミ生やメキシコ国立人類学歴史研究所の院生らが作業に当りました。



チェコでコーパス日本語学ワークショップ

チェコ共和国のプラハ・カレル大学で開催されたワークショップで国際コミュニケーション学部・丸山岳彦教授が講義。ワークショップは、同国で日本語を専攻可能な学科を持つ3大学の日本語学研究者らと丸山教授が企画したもの。丸山教授はコーパス(大規模な言語データベース)の必要性、日本におけるコーパス構築の歴史と現状を講義した後、複数の日本語コーパスの検索方法と、集計・分析方法について演習を行いました。



スポーツ科学研究所と日本バレーボール協会が協定

スポーツ研究所は、東京五輪に向けてビーチバレーボールの普及と競技水準向上を目指し、公益財団法人「日本バレーボール協会」と連携協定を締結しました。日本バレーボール協会が大学との連携協定を結ぶのは初。今後はスポーツ研究所の取り組みやリソースを提供し、ビーチバレーボールのトレーニング方法や技術分析、ゲーム分析、心理面、暑さ対策などの面で選手をサポートする役割を担います。



社会知性フォーラム北上で開催

専修大学と専修大学北上高校主催の社会知性フォーラムを岩手県北上市の日本現代詩歌文学館で開催しました。本フォーラムは専修大学の「知の発信」の場として行う地域貢献事業。当日は「異文化理解と多文化共生」をメインテーマとし、櫻井文子国際コミュニケーション学部准教授、石巻専修大学の水野純理工学部教授、一般社団法人北上市国際交流協会の薄衣景子代表理事が講演。市民ら140人が耳を傾けました。



専大生のチカラ

※学生の学年、情報は2019年度時点のものです。



「ナスカの地上絵」保護に協力。ペルー大使館で観測塔贈呈式

8年にわたり多くの専大生がつないできたプロジェクトがついに結実

ペルーの世界遺産「ナスカの地上絵」の保護を目的としたキャリアデザインセンターの課題解決型インターンシップ「MIRADORプロジェクト」が、2018年末に観測塔「ミラドール」を完成させ、2019年3月に在日ペルー大使館で行われた贈呈式で同国に贈呈しました。式典には駐日ペルー大使ら約20人が参加しました。同プロジェクトは2011年に有志の学生によりスタート。初期メンバーの田島曜志さん(平16経済)を中心として8年にわたって携わった多くの専大生の活動の成果が実を結びました。田島さんは大学卒業後に株式会社MIRADORを設立。課題解決型インターンシップに参加する専大生らと地上絵をモチーフにした製品開発や広報活動、クラウドファンディングによる資金の準備を進めるとともに、日本とペルーの政府機関などとの協議に携わりました。



全国各地のコンテストで専大生が入賞

ゼミ生が活躍、受賞の報告が次々と

CSVビジネスアイデア コンテストで2チームが企業賞

商学部・石川和男ゼミ3年次生が「大学生CSVビジネスアイデアコンテスト」で三井住友カードとキリンホールディングスの企業賞を受賞しました。同コンテストは持続可能な社会を創造するビジネスアイデアを大学生が提案するもので、大手企業4社が参加。コンテストには全国から45チームが参加し、書類審査を通過した10チームが本選に挑みました。



「Sカレ」で2チームが 部門別1位を受賞

マーケティングを学ぶ大学のゼミ対抗商品企画コンテスト「Sカレ (Student Innovation College) 2019」で10月末にコンセプトを競う「秋カン」が開催され、商学部・奥瀬喜之ゼミの3年次生2チームが部門別1位を受賞。Sカレは企業から出されたテーマに対しアイデアを競うもので、2019年は8課題に対し全国25大学29ゼミが参加しました。



2コンテストで入賞

経営学部・一ノ宮士郎ゼミの3年次生らが2つのコンテストで入賞。9月には観光を通じた地域活性化プランを提案する「大学生観光まちづくりコンテスト2019」の茨城ステージで茨城県観光物産協会賞を受賞。続く11月には食や農業について大学生が調査研究し、成果を競う「アグリカルチャーコンペティション」で審査員特別賞を受賞しました。



ベンチャー企業のインターンシップで商品開発

商品の企画・開発・販売までを大学生が行うインターンシッププロジェクトに麻生萌泉さん(経済3)が参加。「一人暮らしの息子の食生活を心配する母からの仕送り」がコンセプトの商品名は「息子への野菜」。麻生さんは商品デザインを担当しました。



伝統素材のアクセサリーを開発

商学部・神原理ゼミの4年次生3名が木内藤材工業(東京都文京区)と協働し、オリジナルアクセサリー「藤(とう)ピアス」を商品化。伝統工芸品に着目した取り組みの成果はNHK報道番組「ニュース シブ5時」でも取り上げられました。



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

専修大学は持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています



専大生が各地のボランティア活動に参加

学生一人ひとりの積極的な姿勢が災害復興の手助けに



岡山県倉敷市でボランティア

西日本豪雨で被害に見舞われた岡山県倉敷市真備町で石川雄也さん(経営2)、鹿間いぶきさん(商2)と、武藤悠平さん(商2)らがボランティア活動に参加。現地ボランティア団体が運営するテント村を拠点に2日間、作業に携わりました。石川さんと鹿間さんは、その後も真備町を訪問。活動を報告したSNSを見るなどした専大生8人を含む、計10人のチームで5日間滞在し、家屋の復旧に当たりました。活動のきっかけはキャリアデザインセンターのリーダーシップ開発プログラム。プログラムでチーム活動を共にした社会人が西日本豪雨ボランティアに参加していたことに刺激を受けて有志の学生がボランティアに参加しました。



千葉県南房総市でボランティア

学生団体SKV(専修神田ボランティア)のメンバー5名が、2019年の房総半島台風で住宅の倒壊や大規模停電など、多大な被害を受けた千葉県南房総市を訪問し、がれきの撤去などの作業に当たりました。ボランティアに参加した5名は、長谷川拓海さん(法4)、平林風雅さん(法3)、福田慶伍さん(法3)、菊池卓太郎さん(法3)、柳川寛樹さん(法2)。災害救援ボランティア推進委員会(東京都)から「専大生の力を貸してほしい」という要請を受け、事前に安全衛生面などの講習会を受けて参加しました。メンバーの福田さんは「被害は思ったよりも甚大だった。現地を見て感じたことをメンバー全員で共有したい」と振り返りました。



日本地球惑星科学連合2019年大会で 学生優秀発表賞を受賞

地球惑星科学を構成する全分野をカバーする学術団体「日本地球惑星科学連合(JpGU)」の2019年大会で栗本享宥さん(院文修1)が学生優秀発表賞を受賞。発表タイトルは「1586年天正地震に伴い発生した岐阜県郡上市の水沢上地すべり」で、文学部環境地理学科3年次在学中から取り組んできた研究の集大成となりました。



MOS世界学生大会エクセル1次選考で3位入賞

「MOS世界学生大会2019」で、酒井悠汰さん(商4)がエクセル科目大学・短大部門の1次選考で3位入賞を果たしました。MOSは「マイクロソフト・オフィス・スペシャリスト」の略。本大会は、社会人として必要なスキルを身につけ、国際的に活躍できる人材育成を目的として開催する世界規模のパソコン大会です。



公認会計士試験に24人、司法試験に7人、 国家公務員採用総合職試験に6人が合格



2019年度の公認会計士合格者が発表され、専修大学からは在学生・卒業生合わせて24人(2020年2月10日判明分)が合格を果たしました。内訳は在学生13人(2年次生1人、3年次生6人、4年次生5人、大学院生1人)と卒業生11人。2年連続で2年次生の合格者を輩出しました。また、司法試験では専修大学法科大学院修了者の7人が合格。国家公務員採用総合職試験では6人が合格を果たしました。

SENSHU SPORTS & TOPICS

※学生の学年、情報は2019年度時点のものです。



卓球 -Table tennis-

春季関東学生卓球リーグ戦で優勝

男子が5シーズンぶり30回目の優勝

秋季関東学生卓球リーグ戦が埼玉県・所沢市民体育館ほかで開催。殊勲賞の三部航平さん(商4・青森山田高)、優秀選手賞の及川瑞基さん(商4・青森山田高)がチームをけん引し、6勝1敗で5シーズンぶり30回目の優勝を果たしました。最終戦で中大に敗れ、全勝優勝こそならなかったものの第6戦でリーグ戦4連覇中(当時)の王者・明大を降して充実の成績。シングルス全勝の三部さんは「大学生活最後のリーグ戦でチームに貢献し、優勝することができ良かった」と喜びを語りました。4年間でリーグ戦通算40勝を挙げた及川さんと、30勝を挙げた三部さんは特別賞も受賞しました。

及川瑞基が連覇!木村香純が優勝!

全日本大学総合卓球選手権、男子シングルスでは及川瑞基さん(商4・青森山田高)が連覇を達成しました。また全日本学生選抜卓球選手権、女子シングルスで木村香純さん(経営2・四天王寺高)が見事、初優勝。得意のドライブを武器に予選リーグを全勝で通過。強豪を圧倒する戦いぶりをみせました。



三部航平さん(上)・三部・及川ペア(左下)
木村香純さん(右中)・及川瑞基さん(右下)



バスケットボール -Basketball-

全日本大学バスケットボール選手権で男子バスケ部が数々の強豪校との戦いを制して2年連続準優勝の好成績を収めました。今大会では盛實海翔さん(商4・能代工高)が敢闘賞と3ポイント王、観客投票で選ばれるMIPの3賞を受賞。西野曜さん(経済3・近大附属高)が優秀選手賞と得点王に輝くなど、チーム・個人ともにインパクトを残しました。2020年は悲願の優勝に向けて期待が高まります。



盛實海翔さん



ローラースケート -Roller skates-

スピードとホッケーの2部門で大学日本一を決める全日本学生ローラースケート選手権において、女子は両部門で1位を獲得。2年連続で総合優勝を達成しました。スピード部門では高萩嬉らさん(文1・光丘高)がその実力を遺憾なく発揮。ホッケー部門ではトーナメントを順位に勝ち上がり、決勝戦では國學院大に逆転で勝利しました。



高萩嬉らさん(上) 優勝を喜ぶ女子メンバー(下)



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

専修大学は持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています



ラグビー -Rugby-

4年ぶりにグループ優勝

2015年以来の関東大学春季ラグビー大会グループ優勝を弾みに、2019年は前年度の成績を上回る関東大学リーグ一部5位でシーズンを終えました。2020年度も活躍が期待されます。

セブンズユニアーシアード優勝に貢献

野口宜裕さん(法4・早稲田摂陵高)がイタリアで行われた第30回ユニアーシアード夏季競技大会に日本代表として出場。チームの初優勝に貢献した功績を称え、川島記念特別功労賞が授与されました。



関東大学春季ラグビー大会(立教大戦)の様子
野口宜裕さん(中)と日高理事長(右)、
佐々木学長(左)



フェンシング -Fencing-

全日本学生フェンシング選手権 男女で優勝!

全日本学生フェンシング選手権において、男子フルーレで園田嶺太さん(商4・検見川高)、女子エペで成田琉夏さん(文1・聖霊女子短大付属高)がともに初優勝。学生日本一に輝きました。

U23アジア選手権女子エペで金メダル

タイ・バンコクで行われたフェンシングのU23アジア選手権、女子エペで成田琉夏さん(文1・聖霊女子短大付属高)が優勝しました。次なる目標のジュニアW杯に向けてさらなる活躍を誓いました。



園田嶺太さん(右)
成田琉夏さん(右)

TOPIC 1 全国各地で就職支援協定を結ぶ

専修大学は、全国各地の自治体との就職支援協定締結を進めています。2019年度は新たに三重県、福井県、富山県、香川県の4県と協定を締結。就職支援協定の数は35自治体(34府県1市)となりました。三重県との協定では、新たに遠隔通信技術を活用したウェブ上での合同企業説明会の開催や、三重県産の食材を使った学食フェアの実施などの企画を推進する方針が示されました。各自治体との就職支援協定を契機として、学生やご父母・保護者に対する各地の求人情報やリターン・Iターン情報の発信力を向上させるほか、合同企業説明会などを開催し、各県の暮らしの魅力を伝えるなど、就職活動のさらなる支援強化を図ります。

専修大学と就職支援協定を締結している自治体(協定順)
群馬、茨城、栃木、長野、山形、新潟、静岡、秋田、札幌市、宮城、福島、佐賀、熊本、福岡、青森、石川、大阪府、富崎、鹿児島、広島、山梨、岡山、鳥取、滋賀、岩手、岐阜、島根、高知、京都府、愛知、千葉、三重、福井、富山、香川



佐々木学長(左)と三重県の鈴木知事(右)

TOPIC 2 『喜劇 愛妻物語』が最優秀脚本賞を受賞

映画やテレビドラマの制作会社に所属する代情明彦さん(平2経済)がプロデューサーを務めた映画『喜劇 愛妻物語』が、第32回東京国際映画祭コンペティション部門で最優秀脚本賞を受賞。東京国際映画祭はアジアで最大規模の映画祭で、2019年は世界から約1800本の作品が寄せられました。



足立監督(左)と代情明彦さん(右)

TOPIC 3 NHK大河ドラマ『いたてん』に出演

1964年の東京オリンピック開催までの半世紀を描いたNHKの2019年大河ドラマ『いたてん』に、大学院卒業生でインドネシア人のルトフィ・バクティヤルさん(平19院経済修)が出演。インドネシア建国の父・スカルノ元大統領役に抜擢、川島正次郎元総長役の浅野忠信さんと共に演しました。



ルトフィさん(右)と浅野忠信さん(左)



高橋礼選手



仲川輝人選手

[貴重書ギャラリー]

算術、幾何、比及び比例総覧



パチヨーリ『算術、幾何、比及び比例総覧』初版
Pacioli, Luca, d. ca. 1514.
Su[m]ma de arithmeticeta geometria proportioni
[et] proportionalita.
Venice : Paganinus de Paganinis ,
10-20 Nov. 1494.
[8], 224, 76 leaves : ill. ; 30.5 cm.

15世紀イタリアにおける数学、幾何学を「総覧」した書物。内容はパチヨーリ自身のオリジナルというものではないが、彼の著作としては初めて印刷されたものである。最初に刊行された数学全書としての価値を持ち合わせているといえる。本書が後の評価として大きく取りあげられたのが、中世期イタリアにおいて、商人ごとの秘伝的扱いともなっていた「ヴェネチア式簿記法」が本書を通じて一般に公開されたことで「複式簿記」の普及に果たした功績とされている。「簿記」の紹介箇所は本書の番号付紙葉198番裏から210番裏までの部分と短編であるが、この複式簿記の基本構造は500年を経た現代の企業においても日常に利用している記帳技術にそのまま受け継がれている。「会計の父」とも称される所以である。パチヨーリの親友であるレオナルド・ダ・ヴィンチは本書を当時の119ソルディで購入したことが記録に残されている。(レオナルド・ダ・ヴィンチ『アトランタ手稿』)

本書の初版には3種類が存在することが知られている。イタリアの『インキュナブラ全国所在目録』には7132、7133、7134の番号付けて区別されている。

7132 … 1494年刊行の初版第1刷。(専修大学所蔵本)

7133 … 1502年8月13日以降に一部を刷りかえている。

7134 … 1509年以降、さらに一部を変えたもの。

専修大学所蔵本の第1葉裏の本文下の余白にはパチヨーリを賞賛する詩が書き込まれている。

募金ご協力のお願い

専修大学の教育・研究活動、学生支援、教育施設設備のため、皆様のご支援ご協力をお願いいたします。

※払い込みには、金融機関・ネットバンク、コンビニ、クレジットカードのご利用が可能です

専修大学・石巻専修大学「社会知性(Socio-Intelligence)の開発」推進募金

この募金は、本学が進めている事業のうち、国際交流の推進支援、学生スポーツ活動の振興、学生への経済的支援、キャリアデザインプログラム充実支援、学生のボランティア活動支援、教員の研究活動支援等を募金目的の柱としています。また、それぞれの募金目的が、具体的に使途を特定したものとなっています。これにより、皆様が、本学の活動のうち、より強化・充実したいと思われるものを具体的に指定し、支援することができる仕組みとなっております。

お問い合わせ

専修大学募金局

TEL 03-3265-3157
E-mail : bokin@acc.senshu-u.ac.jp

募金のご協力はこちらから
<https://www.senshu-u.ac.jp/about/donation/method.html>



[専修大学 学長室企画課]

[神田キャンパス] 〒101-8425 東京都千代田区神田神保町3-8 [生田キャンパス] 〒214-8580 神奈川県川崎市多摩区東三田2-1-1

Tel:044-911-1252 Fax:044-900-7803 <https://www.senshu-u.ac.jp/>

※本誌は、学生・教員へのインタビューに加え、ニュース専修掲載記事や本学HP等を通じて公開された情報を元に編集し発行しています。

本書は[可読性][視認性][判別性]に優れ、年齢・性別に関係なく、誰もが読みやすく、見やすいUD(ユニバーサルデザイン)書体を使用しています。